

多文化共生の俱知安ならではの教育推進について

町長 国際感覚、語学力を備えた人材育成

教育長 グローバル化する社会で世界と向き合う



議員 眞司 古谷

に暮らす人々との触れ合いを通して、国際感覚や語学力を備えた人材育成の観点から、英語力向上の取り組みを進めていく。また、英語を初めとする言語は、あくまでも意思疎通を図るためのツ

ルであり、日本語や生まれ育った地域の歴史や文化、風土への関心、理解を深め、日本人としてみずからの国に自信や誇りを持つことが国際社会で活躍する人材の育成には非常に重要と考える。

古谷 本町の特色である多文化した地域社会において、国内や世界の人たちと豊かな触れ合いをするためには、語学教育も大切であるが多様な文化の理解と尊重の精神を持ち、探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育成することが大切と考え、それに合わせた教育システムが必要と考えるが、見解を伺う。

教育長 グローバル化する社会の中で、世界と向き合うことが求められている今、子どもたちが多様な文化の理解と尊重の精神を持ち、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成については、まさにこれから次期学習指導要領の中で国が目指していく教育と



多文化交流の様子

の関連も深いと考えている。

古谷 国際バカロレア教育システムという一つの方法として考えるが、見解を伺う。

あり、次期学習指導要領の中で文科省が目指す教育とも大変関連が深いと考える。

教育長 多様な文化の理解と尊重の精神を持ち、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成という視点は、これはまさに国際バカロレア教育が目指すものである。

現在、札幌開成中等教育学校が取組んでいるシステムであるが、本町において国際バカロレア教育システムが地域の皆様の理解をいたさながら、この地域に馴染んでいくのかなど、あらゆる観点から検討をした中でしっかりと見きわめていく必要がある。

古谷 平成28年2月に示された『俱知安町教育大綱』において、「一人一人が信頼と協働の心でつながりより良い暮らしを創りあげていくよう、地域資源を活かして町を元気にしていく」とあるがその地域資源をどのように活かし、持続的な教育環境を整えていくのか町長の見解を伺う。

町長 国際色豊かな地域性こそが本町ならではの地域資源と捉え、町



イングリッシュデイキャンプの様子